

今週のKinoppy新着情報一学術書・教養書



スポーツの経済学

小林至 税込 ¥1,899 (紙の書籍 ISBN:9784569827902 2015/12刊)
PHP研究所

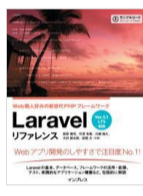
見物料を取って競技を見せる、現代につながる「スポーツ興行」の始まりは、何と、日本の江戸時代に行われていた、勧進相撲だった。日本人は、スポーツをビジネスにするという、先見の明があった。しかし、現在では、欧米諸国に大きく後れを取ってしまっている。本書では、東京大学出身のプロ野球選手として有名な著者が、選手経験、球団経営経験、留学、現地視察経験など、多彩な視点から、今後の成功法則を考える。



イラスト哲学入門 もし古今の哲学者20人が時空を超えて重要問題を議論したら

驚田小彌太/工藤六助 税込 ¥1,836 (紙の書籍 ISBN:9784865650365 2016/01刊)
言視舎

ワシダ教授が古今の大哲学者20人を招いて開く、哲学議論の紙上饗宴。時空を超えて哲学者たちが重要問題を徹底論議！ イラストの絵解きがつき、それぞれの哲学の核心がいつきにわかる1冊。ブックガイドも充実。本書は2001年刊『哲学ドリル』(すばる舎)を改訂、再編集した2010年刊『イラスト・哲学「仮想(ヴァーチャル)」大討論会』(彩流社)を改題、電子書籍化したものです。



Laravel リファレンス[Ver.5.1 LTS 対応]

新原雅司/竹澤有貴/川瀬裕久/ 税込 ¥4,536 (紙の書籍 ISBN:9784844339458 2016/01刊)
大村創太郎/松尾大
インプレス

より快適なWebアプリ開発を実践できるPHPフレームワークの解説書。バージョン5.1 LTS(長期サポート版)に対応！ 既存のフレームワークと比べて、Laravelには多数の長所があります。より柔軟性がある、読み書きがしやすい、データベースと連携しやすい、最新PHPへの対応が早い、ユニットテストが整っている、英文ドキュメントが充実、など。これからLaravelを学ぶ初学者はもちろん、既に活用している開発者にも参考になる構成内容を心掛けました。



インフラ/ネットワークエンジニアのためのネットワーク・デザインパターン 実務で使えるネットワーク構成の最適解27

みやたひろし 税込 ¥3,672 (紙の書籍 ISBN:9784797382846 2015/12刊)
SBクリエイティブ

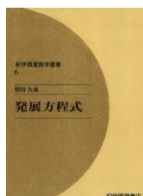
長年の実務経験でしか得られないネットワークの物理設計・論理設計・運用管理のポイントがこの1冊で手に入る——。本書では、現代のネットワークを社内LAN、インターネット接続、サーバLAN、拠点間接続の4つに分け、それぞれの構成の最適解を提示しています。機器構成設計、物理構成設計、VLAN設計、IPアドレス設計、ルーティング設計、STP設計、FHRP設計、スタック構成設計、リンク冗長化設計、帯域拡張設計、経路冗長化設計など、詳細に解説。ネットワークにかかわるすべてのエンジニアの実務に耐えうる一冊です！



誰でも作れる センサロボット

熊谷文宏 税込 ¥2,376 (紙の書籍 ISBN:9784274505430 2015/11刊)
オーム社

六つのセンサ制御ロボットをやさしく手作り。本書は、簡単に入手できる市販部品を使い、センサ制御による手作りロボットが製作できることを目標としています。ロボットの機構や電子制御のしくみが理解できるようになり、回路図を読む力もつくよう配慮してあります。わかりにくいデジタル技術の原理と動作も実験により理解できます。準備する工具、組立て手順も丁寧に記述しています。はんだ作業も最小限。共通部品を多くし、部品代が高価にならないように配慮するなど、製作側の立場に立った配慮が凝らされています。著者は以前、全日本相撲ロボット大会・高校生大会での全国優勝校の指導者。



発展方程式 紀伊國屋数学叢書〈6〉

増田久弥 税込 ¥9,396 (紙の書籍 ISBN:9784314701075 2008/11刊)
紀伊國屋書店

今日の解析学の主流をなし、物理数学等への応用面でも重要な発展方程式の基礎と応用を記述する。第1部では基礎と、吉田・ヒレ、加藤、田辺等の理論の解説。第2部では応用として生成作用素の局所表現定理、三つの型(一階双曲型、二階放物型、準線型)の偏微分方程式のコーシー問題、擬微分作用素等を扱う。



ガウス過程——表現と応用 紀伊國屋数学叢書〈9〉

飛田武幸/榎田倍之 税込 ¥8,532 (紙の書籍 ISBN:9784314701105 2008/11刊)
紀伊國屋書店

ガウス過程は、時間の推移とともに変化する偶然現象の数学的モデルである確率過程の中で最も重要な位置を占める。本書は基礎概念から最近のトピックまでの一貫した理論を展開する。特に、標準表現、マルコフ性や定常性に詳しく、予測理論や信号検波の問題等への直接の応用も詳細に述べてある。



非線形半群 紀伊國屋数学叢書 <10>

宮寺功 税込 ¥10,260 (紙の書籍 ISBN:9784314701112 2008/11刊)
紀伊國屋書店

本書は、主としてバナッハ空間における非線形半群の理論を詳しく丁寧に解説している。関数解析の基礎知識があれば十分読むことが可能で、読者は本書により、現在発展途上にあり、今後の豊かな成果が期待されている、非線形の半群と発展方程式の基礎を理解し、その将来への展望を獲得することが可能となるだろう。



不変式論 紀伊國屋数学叢書 <11>

森川寿 税込 ¥7,884 (紙の書籍 ISBN:9784314701129 2008/11刊)
紀伊國屋書店

古典不変式論やリー変換群の理論は、現代に展開されている数学の母体である。本書は古典不変式論への手引きであるとともに、その発想やアイデアが、現代の幾何学や解析学にもはなはだ有効であることの例示を目標とする。具体的には古典的手法を形式的巾級数に拡張することにより、保型形式、線形微分方程式の不変式、曲線の射影不変量などを統一的に扱う。



楕円型偏微分作用素 紀伊國屋数学叢書 <12>

島倉紀夫 税込 ¥11,124 (紙の書籍 ISBN:9784314701136 2008/11刊)
紀伊國屋書店

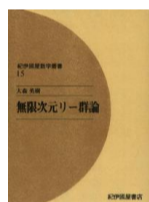
楕円形偏微分方程式の理論は、数学及び自然科学のいろいろの分野に現れる。変分問題を扱う場合に、非常に重要な役割を果たす。本書は、この理論の1960年代前半までに確立された主要な結果を、初歩の段階から丁寧に叙述したもの。



無限次元空間の測度 上——拡張定理 紀伊國屋数学叢書 <13-A>

山崎泰郎 税込 ¥9,180 (紙の書籍 ISBN:9784314701143 2008/11刊)
紀伊國屋書店

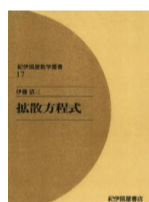
上巻ではほぼ完成された内容を持っているといわれる拡張定理について、また下巻では(ローレンツ不変性も含め)不変測度について、著者自身による新しい結果を織り込みながら詳しく体系的に解説する。無限次元空間の測度論は、従来確率論との関連で進められてきた結果、無限測度の研究はあまり行われなかった。この分野では初の待望の書。



無限次元リー群論 紀伊國屋数学叢書 <15>

大森英樹 税込 ¥14,688 (紙の書籍 ISBN:9784314701181 2008/11刊)
紀伊國屋書店

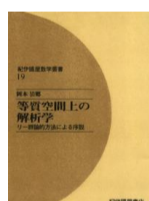
本書は、近年とみに重要性が強調されている無限次元リー群論の最初のまとまった教科書であると同時に、この理論を通じて切り開かれるべき幾何学の諸分野についても、群論の見地から言及した他に類を見ない独創的な本である。



拡散方程式 紀伊國屋数学叢書 <17>

伊藤清三 税込 ¥10,584 (紙の書籍 ISBN:9784314701204 2008/11刊)
紀伊國屋書店

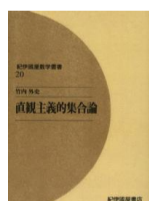
本書は、熱伝導や拡散現象を記述して、確率過程論でも重要な拡散方程式とそれに対応する楕円型方程式を扱う。拡散方程式の基本解を古典的方法で構成し、その基本解から楕円型作用素のグリーン関数・ノイマン関数を構成し、初期値・境界値問題、調和関数の性質やベクトル解析の話題にも言及する。



等質空間上の解析学——リー群論的方法による序説 紀伊國屋数学叢書 <19>

岡本清郷 税込 ¥8,640 (紙の書籍 ISBN:9784314701228 2008/11刊)
紀伊國屋書店

対称空間上の調和解析、リー群論のユニタリ表現論、保型関数論、量子力学、場の量子論など多くの分野に発展している等質空間上の解析学におけるリー群論方法の基本原理解説する。球面、上半平面や単位円板の等質空間としての構造から始めて、最後にはBorel-Weil-Bottの理論まで、具体的な計算を通じて学部学生にも分かるように記述する。



直観主義的集合論 紀伊國屋数学叢書 <20>

竹内外史 税込 ¥7,992 (紙の書籍 ISBN:9784314701235 2008/11刊)
紀伊國屋書店

直観主義的集合論についてなされてた世界で最初の系統的な著述であり、その基本的事項を詳しく厳密に述べることに重点がおかれている。位相の代数的一般化である完備ハイティング代数から始まって、直観主義的集合論の構成、その上での直観主義的解析学について述べた後、二、三の応用について言及している。



沖縄の心の原点

大木田守 税込 ¥1,173 (紙の書籍 ISBN:9784487754717 1996/05刊)
東京書籍

復帰前後の1年間をジャーナリストとして那覇で過ごし、復帰に揺れる沖縄の心のレポートを自著「沖縄」に加筆。当時の復帰をめぐる沖縄の素顔とその後を加え、基地問題の原点を探る。

